

科目区分・分類	専門・講義	対象学科名・学年	環境都市5年	科目コード	59501575
科目名	環境アセスメント Environmental Impact Assessment				
担当教員	宮入 賢一郎, 松岡 保正				
単位数(時間数)	必選 後期 1単位 (30時間)	学習・教育目標との対応	(D-2)		
授業の目的と概要	開発事業による環境への影響を事前に予測・評価する環境アセスメントについて、その意義や必要性を理解し、制度や手法等に関する基礎知識を得る。特に環境影響評価法や県条例といった環境影響評価の法制度、環境に対する影響緩和手法(ミティゲーション)、実務的な環境保全措置のあり方、情報公開等について学習する				
先修科目	環境生態学				
後修科目					
備考	景観計画, 環境生態学に関する知識が必要となる。				
	授業項目	時間	内容		
1	環境アセスメントの基礎知識 / 開発行為と環境要素	4	具体的な開発行為をとりあげ、KJ法によって、環境要素を抽出、説明できる。		
2	環境影響評価の法制度 / 国の制度、県条例とその特徴	4	国や自治体の環境アセスメントについて理解し、用語と仕組みを説明できる。		
3	環境アセスメントの手續 / 方法書, 準備書, 評価書	2	アセスメント制度での用語を理解し、手続きを説明できる。		
4	ミティゲーション手法 / 回避, 最小化, 修正, 低減	2	環境保全措置の体系的な概念であるミティゲーションを理解し、レポートにできる。		
5	ミティゲーション手法 / 応用・必要性	4	環境保全措置の体系的な概念であるミティゲーションを理解し、レポートにできる。		
6	環境の構成要素の良好な状態の保持 / 大気質, 水質	2	アセスメントの技術を理解し、代表的な要素についてレポートにまとめることができる。		
7	環境の構成要素の良好な状態の保持 / 騒音, 振動	2	アセスメントの技術を理解し、代表的な要素についてレポートにまとめることができる。		
8	生物多様性確保, 自然環境保全 / 植物, 動物, 生態系	2	アセスメントの技術を理解し、代表的な要素についてレポートにまとめることができる。		
9	快適環境の保全・創出 / 景観, 触れ合い活動, 文化財	2	アセスメントの技術を理解し、代表的な要素についてレポートにまとめることができる。		
10	シミュレーション / 数値化, 定量化手法と評価	2	代表的なシミュレーション(大気質, 騒音, 振動)で数値予測し、評価できる。		
11	トレードオフとリスクマネジメント	2	環境リスクとトレードオフを理解し、説明できる。		
12	技術者倫理, 環境アセスメントの展望	2	環境リスクと技術者倫理を理解し、説明できる。		
学年末試験					
学習・教育目標を達成するために身に付けるべき内容	環境アセスメントの制度や手続きの特徴, ミティゲーションやリスクマネジメントの手法を説明でき, ケーススタディやワークショップの手法で問題解決策を提案できることをもって, (D-2)の達成とする。				
成績評価	期末1回の定期試験の成績(70%)およびレポート課題(30%)の合計100点満点で(D-2)を評価し, 合計の60%以上を獲得したものを本科目の合格者とする。				
教材	参考書: 阿部晶『環境政策』, 環境コミュニケーションズほか教官の作成した資料				
オフィスアワー	原則として下記の教員が代わって対応します。遠藤典男: 毎週水曜日16:00~17:00, 環境都市工学科教員室。宮入教員へのメールによる問い合わせ可。				